

東京都社会福祉審議会意見具申 骨子（素案）構成

2025年以降を見据えた施策の方向性～第18期提言を踏まえて～

はじめに

- 今回の審議テーマ
前期意見具申の「視点」を踏まえるとともに、団塊の世代が後期高齢者となる2025年以降を見据え、地域包括ケアを推進していくにあたり、東京都が取り組むべき課題等を検討

第1章 東京の現状と将来の姿

第1節 急激に変化する人口構造

- 高齢化と少子化の進展により、将来的に人口構造が大きく変化

第2節 地域社会を取り巻く環境の変化

- 加齢に伴う身体機能低下、社会的孤立、低所得・借家住まいなど様々なリスク要因

第2章 地域包括ケアシステム構築に必要な視点

- 人口構造、社会・経済環境など、様々な要素の複合的な変容を中長期的に展望
- 様々な主体による取組を有効に組み合わせ、多様なニーズに対応
- 地域の資源を十分に活かし、新たな住まいと住まい方に向けた方策を見出す
- 地域特性や課題を十分に踏まえ、各区市町村において効果的な地域ケアシステムを構築

第3章 地域包括ケアシステムの構築に向けた施策展開

第1節 東京の地域包括ケアシステムを進めるための要素

1 暮らしと住まいの施策

- 適切な住宅の確保は、地域包括ケアシステムを構築する所与の条件
- 居住空間の質の確保も含め、多様な住まいへのニーズに対応
- 地域の優良な空き家ストックの有効活用
- 福祉部局と建築行政等の関係部局の連携

2 多様なニーズへの対応

- 日常生活圏域という「面」の中に必要なサービスを配置
- 地域密着型サービスを含む居宅サービスの基盤を整備
- アウトリーチ型支援及び見守り・相談など生活支援の充実
- 区市町村の居住支援協議会等を活用して関係者が連携し、適切な住宅や支援を要する人への見守りサービス等の提供

3 在宅療養の推進

- 日常の療養生活支援に加え、急変時等の対応も含めた切れ目のない地域医療体制を構築
- 医療・介護に関わる様々な機関や多職種の連携推進及び人材の育成
- 訪問診療や訪問看護の量の拡大及び機能強化

4 地域資源のネットワーク化とマネジメント

- インフォーマルな資源を地域包括ケアシステムの中に積極的に組み入れ
- 「自助」「互助」「共助」「公助」を有効に組み合わせ、地域に合った最適なサービス提供
- フォーマル・サービス、インフォーマル・サポートの機能を最大限発揮させるため、地域の中でネットワーク化し、適切にマネジメント
- 多様な地域資源の中から必要なものを適切に選択し、安心して利用できる環境の整備

第2節 地域特性を踏まえた地域包括ケアシステムの要素

- 東京は、地域により多様な顔を持ち、各地域で都市基盤や社会資源にも特色
- 人口密集地域では、大規模施設の整備が困難である一方、社会資源等が充実しており、資源を最適化し提供することが可能。空き家を含め、様々な既存ストックに活用の可能性
- 郊外・ベッドタウンでは、既存機能を有効に活用し、拠点づくりを進めることも有効
- 過去に大規模開発を行い、高齢化が進展した集合住宅地域では、空き部屋や商店などを有効活用し、集約されたエリアで完結的なサービスを展開できる可能性
- 地域の特徴や強みを十分に活かしながら、将来の地域の姿を展望し、効果的な地域包括ケアシステムを構築

おわりに

- ニーズが急増する中で、施設に重心を置いたサービス提供には限界
- 地域資源を最大限に活用し、住民と行政が一体となり地域包括ケアシステムを構築
- 地域包括ケアシステムを進めることにより、地域力の向上など好循環が生まれる期待
- 元気高齢者などの人的資源を支え手として有効活用
- 「支援付き施設」の整備から、日常生活圏域で様々なサービスを受けることができる「支援付き地域」の構築への転換